

初版作成日：2019/09/27

改訂日：2024/11/28

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品名称 製品名：モトヤ ゴム専用メンテナンス剤

用途：洗浄剤 会社名：株式会社モトヤ 担当部署：営業本部特販課 住所：〒530-0038
大阪市北区紅梅町2-8 電話番号：06-6358-9131（緊急連絡先）/FAX：06-6358-9130

2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類 物理化学的危険性 引火性液体：区分3

健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性：区分2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分2A

皮膚感作性：区分1 誤えん有害性：区分1

環境有害性 水生環境有害性 短期(急性)：区分3 水生環境有害性 長期(慢性)：区分3

GHSラベル要素



注意喚起語：危険 危険有害性情報 引火性液体及び蒸気 皮膚刺激 強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に有害 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き 安全対策 環境への放出を避けること。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。 容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置 火災の場合：指定された消火剤を使用すること。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

無理に吐かせないこと。 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

保管 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 施錠して保管すること。

廃棄 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性 燃えやすい液体である。 蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報 化学物質・混合物の区別：混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号
石油系炭化水素	非公開	登録済	登録済
エステル系溶剤	1~10	-	-
プロピレングリコールモノメチルエーテル	5~15	107-98-2	2-404
アルコール系溶剤	5~15	-	-
ジペンテン	<3	5989-27-5	3-2245; 7-988; 8-498

不純物および安定化添加物なしと推定される。

4. 応急措置 吸入した場合 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。
 必要があれば人工呼吸または酸素吸入等を行い、安静保温につとめ医療措置を受ける手配をする。
 皮膚(又は髪)に付着した場合 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。
 製品に触れた部分を水または微温湯を流しながら洗浄する。
 石鹼等を使って落とす。外観に変化や痛みが続く場合は直ちに医療措置を受ける手配をする。
 眼に入った場合 清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。
 洗浄の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗浄する。
 飲み込んだ場合 水で口腔内を十分に洗浄する。
 コップ1~2杯の水、又は牛乳を与えて胃内を薄めても良い。直ちに医療措置を受ける手配をする。
 被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。
 医師に対する特別な注意事項 特別な処置が必要である。
5. 火災時の措置 消火剤 適切な消火剤 粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂
 使ってはならない消火剤 棒状水を消火に用いてはならない。 消火を行う者への勧告
 特有の消火方法 火元への燃焼源の供給を速やかに断ち、消火剤で消火する。
 周囲の設備等に散水して冷却する。 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
 消火活動は風上から行い、有毒なガス、煙等の吸入を避ける。
 状況に応じて適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 ばく露防止のため、保護具(項目8参照)を着用して作業を行う。 換気を行う。
 環境に対する注意事項 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 除去方法(回収、中和等)
 多量の場合、盛り土・土嚢等で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから空容器への回収等の
 処理を行う。少量の場合、オガクズ・ウエス、砂等の吸着剤に吸着させて除去後、残りをウエス・
 雑巾等でよく拭き取る。
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い 技術的対策(取扱者のばく露防止)
 適切な保護具を着用し、皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、目に入らないようにする。
 (火災・爆発の防止) 取り扱い場所周辺の高温物・スパーク・火気の使用を禁止する。
 安全取扱注意事項 作業場の換気は十分に行う。漏れ、あふれ、飛散しないようにする。
 可燃性がある。熱、火花等で着火することがある。 接触回避 他の薬剤とみだりに混合しない。
 保管 安全な保管条件 直射日光を避け、冷暗所に保管する。 周辺での火気の使用を禁止する。
 安全な容器包装材料 製品に使用している容器に準ずる。
8. ばく露防止及び保護措置 管理指標 管理濃度、濃度基準値 データなし
 許容濃度 日本産衛学会の許容濃度 データなし (プロピレングリコールモノメチルエーテル)
 ACGIH(2013) TWA: 50ppm; STEL: 100ppm (眼及び上気道刺激)
 ばく露防止 設備対策 取り扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
 適切な排気設備を使用する。
 保護具 呼吸用保護具 防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク、空気呼吸器等を着用する。
 手の保護具 不浸透性保護手袋を着用する。 眼の保護具
 普通眼鏡型又はゴーグル型の保護眼鏡を着用する。
 皮膚及び身体の保護具 保護服、保護長靴、保護前掛け等を着用する。
9. 物理的及び化学的性質 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報 物理状態: 液体
 色: 無色透明 臭い: 炭化水素臭 融点/凝固点: データなし 沸点又は初留点: データなし
 沸点範囲: データなし 可燃性(ガス、液体及び固体): データなし
 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界: データなし 引火点: 約32℃ 自然発火点: データなし
 分解温度: データなし pHデータ: なし 動粘度: データなし 動粘性率: データなし
 溶解度: 水に対する溶解度: 難溶 溶媒に対する溶解度: データなし

n-オクタノール/水分配係数：データなし 蒸気圧：データなし 蒸気密度：データなし
密度及び/又は相対密度：0.85～0.95 相対ガス密度(空気=1)：データなし 粒子特性：データなし

10. 安定性及び反応性 反応性 反応性：データなし

化学的安定性：通常の保管条件/取扱い条件において安定である

危険有害反応可能性 特記すべき反応性なし 避けるべき条件 直射日光、スパーク、熱/熱源
混触危険物質 他の薬剤とみだりに混合しない 危険有害な分解生成物
分解による危険有害物質の生成なし

11. 有害性情報 毒性学的影響に関する情報 急性毒性 急性毒性(経口) [会社固有データ]

経口 ラット他 LD50 >2,000mg/kg*1 急性毒性(吸入) [日本公表根拠データ]

(プロピレングリコールモノメチルエーテル)

vapor: mouse LC50=7395-9258ppm/4hr (SIDS, 2003)

局所効果 皮膚腐食性/刺激性 皮膚に対して、中程度の刺激がある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 眼に対して、中程度の刺激がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 皮膚感作性 [日本公表根拠データ]

(ジペンテン) cat. 1; CLCADs No.5, 1998 [CLP規則 附属書VI 表3]

(ジペンテン) 区分 1B 生殖細胞変異原性 データなし 発がん性 [IARC]

(ジペンテン) Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない [ACGIH]

(プロピレングリコールモノメチルエーテル) A4(2013) : ヒト発がん性因子として分類できない

催奇形性 データなし 生殖毒性 データなし 特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露) [区分3(麻酔作用)] [日本公表根拠データ]

(プロピレングリコールモノメチルエーテル) 麻酔作用 (ECETOC TR95, 2005; SIDS, 2003)

[CLP規則 附属書VI 表3] (プロピレングリコールモノメチルエーテル)

区分 3, 麻酔作用 特定標的臓器毒性(反復ばく露) [区分2]

[日本公表根拠データ] (エステル系溶剤) 上気道 (USEPA/HPV, 2001) 誤えん有害性

[区分1] [日本公表根拠データ] (ジペンテン)

cat. 1; hydrocarbon, (文献値): kinematic viscosity=0.897 (25°C)

and 1.1 mm²/s (25°C) (CLH Report, 2018) [CLP規則 附属書VI 表3] (石油系炭化水素)

区分 1 (ジペンテン) 区分 1 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ *2

12. 環境影響情報 生態毒性 水生環境有害性 水生環境有害性 短期(急性) [会社固有データ]

甲殻類 オオミジンコ他 LC50 10～100mg/L*1 水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ] (ジペンテン) 藻類 (ムレミカツキモ)

NOErC=0.05mg/L/72hr (環境省初期評価, 2021) [CLP規則 附属書VI 表3] (ジペンテン)

区分 3 水溶解度 (石油系炭化水素) 溶けない (ICSC, 2001)

(プロピレングリコールモノメチルエーテル) 非常によく溶ける (ICSC, 1997)

(ジペンテン) 非常に溶けにくい (25°C) (ICSC, 2005) 残留性・分解性

(エステル系溶剤) 急速分解性あり (BODによる分解度: 90% (既存点検, 2000))

(アルコール系溶剤) BODによる分解度: 110% (既存点検, 2003)

(ジペンテン) 急速分解性なし (BIOWIN) 生体蓄積性 (エステル系溶剤)

log Kow=0.35 (NITE総合検索, 2012) (アルコール系溶剤)

log Kow=0.18 (SIDS, 2005) (ジペンテン) log Pow=4.2 (ICSC, 2005)

土壤中の移動性 データなし 他の有害影響 オゾン層への有害性 データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法 残余廃棄物及び汚染容器は廃棄物処理法に従って処理する。

汚染容器及び包装 内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

14. 輸送上の注意 国連番号、国連分類 国連番号またはID番号: 1993

正式輸送名: その他の引火性液体、N. O. S. 分類または区分: 3 容器等級: III

指針番号：128 特別規定番号：223; 274 IMDG Code (国際海上危険物規程)
 国連番号またはID番号：1993 正式輸送名：その他の引火性液体、N. O. S.
 分類または区分：3 容器等級：III 特別規定番号：223; 274; 955
 IATA (航空危険物規則書) 国連番号またはID番号：1993 正式輸送名：その他の引火性液体、N. O. S.
 分類または区分：3 危険性ラベル：Flamm. liquid 容器等級：III 特別規定番号：A3
 環境有害性 海洋汚染物質 (該当/非該当)：非該当 特別の安全対策
 容器が破損しないように乱暴な取り扱いを避ける。荷崩れ防止を確実に行う。
 火気厳禁 MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質
 有害液体物質(Y類) エステル系溶剤; ジペンテン 有害液体物質(Z類)
 プロピレングリコールモノメチルエーテル; アルコール系溶剤
 MARPOL条約付属書V - HME(海洋環境に有害) 水生環境有害性：短期(急性) 区分1 該当物質
 ジペンテン 水生環境有害性：長期(慢性) 区分1, 2 該当物質
 ジペンテン 国内規制がある場合の規制情報 船舶安全法 引火性液体類 分類3
 航空法 引火性液体 分類3

15. 適用法令 当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法：非該当 労働安全衛生法 特化則：非該当 有機則：非該当
 名称表示危険/有害物 プロピレングリコールモノメチルエーテル(別表第9の496) 5~15%
 ジペンテン(令和7年4月1日施行)<3%
 名称通知危険/有害物 プロピレングリコールモノメチルエーテル(別表第9の496) 5~15%
 ジペンテン(令和7年4月1日施行)<3%
 別表第1 危険物 (第1条、第6条、第9条の3関係) 危険物・引火性の物 (30℃ ≤ 引火点 < 65℃)
 皮膚等障害化学物質(規則第594条の2) ジペンテン 化学物質管理促進(PRTR)法：非該当
 消防法 危険物第4類引火性液体：第2石油類非水溶性液体 危険等級 III (指定数量 1,000L)
 化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質：非該当
 大気汚染防止法 揮発性有機化合物(VOC) プロピレングリコールモノメチルエーテル
 廃棄物処理法 特別管理産業廃棄物：引火性廃油 土壤汚染対策法：非該当
 水質汚濁防止法：非該当 化学安全性評価 本製品の化学安全性評価は行なわれていない。

16. その他の情報 参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
 Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
 IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)
 IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年) 2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
 2024 TLVs and BEIs. (ACGIH) Supplier's data/information

1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS) (JIS Z 7253:2019)

2) NITEのGHS分類データを参照。*1 原料SDSより推測 (GHS方式にて計算)

*2 区分1 (炭化水素で40℃動粘度係数 20.5mm²/s 以下) を10%以上配合

製品としての動粘度係数が20.5mm²/s 以下であるため該当。

責任の限定について この情報は新しい知見に基づき、改訂されることがあります。

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。

危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。